

医務室だより

学生の皆さん、こんにちは。ジメジメとした暑い日が続いていますね☔
梅雨時は免疫が低下しがちなので、いつも以上に規則正しい生活を心がけてくださいね☺

さて今回の医務室だよりのテーマですが、現在感染者数が過去最多までに増加している劇症型溶連菌感染症、通称『人食いバクテリア』についてお話したいと思います。

<人食いバクテリアとは>

人食いバクテリアと聞くとなんだかすごい名前ですが、皆さんも溶連菌、という名前は聞いた事があるのではないのでしょうか？溶連菌自体は非常にありふれた菌であり、小児や若年者に多い感染症なので罹患した事がある、という人も多いと思います。

通常は感染しても無症状、もしくは咽頭炎にとどまりますが、稀に筋肉や皮膚組織に菌が侵入し、さらに血流によって全身に広がる事で劇症化します。

感染経路としては、擦り傷などの損傷した皮膚が多いですが、約半数は経路不明です。

<人食いバクテリアの症状>

初期症状は四肢の疼痛、腫脹、発熱、血圧低下などが見られます。

発病から病状の進行が非常に急激で発病後数十時間以内には軟部組織の壊死や多臓器不全を起こし、ショック状態から死に至る事も多いです。

致死率は30%以上と、非常に怖い感染症です。



<人食いバクテリアの治療>

症状が急激に進行するため迅速な診断と治療が必要です。ペニシリン系抗菌薬の投与に加え、壊死が生じた場合は壊死した組織の切除も行います。また、血圧低下が見られる場合は点滴や輸血なども行います。

<人食いバクテリアの予防>

先ほど感染経路についてお話しましたが、半数の経路不明のものを除くとやはり一番多いのは創口からの侵入です。創部は清潔に保つようにしましょう。

また、他の感染症同様普段からの感染対策が有効となりますので、手洗いやマスク、免疫力を上げるための規則正しい生活が予防の鍵となります。

<まとめ>

人食いバクテリアは、高齢者、妊婦、糖尿病などの持病がある免疫力が低下している人がかかりやすい病気ではありますが、若い人は病気にかからないというわけではありません。十分な睡眠、バランスの良い食事、適度な運動を心がけて免疫力を低下させない生活を心がけましょう！！

